



「学校教育目標」
 絆を深め、地域社会に
 貢献できる生徒の育成

○自ら学ぶ ○思いやる
 ○体を鍛える

生徒の手づくり行事で幸せに「櫛祭」

文責 竹田 圭志

10月29日(木)の5・6校時、体育館を会場に「櫛祭」が開催されました。

以前、学校だよりでもお知らせしたように、今年度は町として、正規の形での体育祭や文化祭は実施しないこととなりました。ただ、このコロナ禍の中だからこそ、何か工夫してできる行事があるのでは？ と、1学期末にもこの学校だよりで生徒の皆さんに投げかけました。この行事は、旧生徒会本部役員メンバーが企画して実行委員を募り、全校生徒に呼びかける中、「我こそは」という有志生徒・教員が参加してくれた、生徒の手づくりの行事です。

実行委員長(3年生)のあいさつを皮切りに、司会の旧生徒会役員2名(3年生)の絶妙な進行、芸達者な有志メンバーのハイレベルなパフォーマンス。歌有り、ダンス有り、楽器演奏あり。たくさんの方の幸せを櫛台中学校に運んでくれました。また、3年生が受験勉強との両立が大変な中にもかかわらず、大勢参加してくれたことにも感謝したいと思います。

例年の文化祭のような、保護者や来賓の参観はありませんでした。また、席を立ってステージ周辺に観客が押し寄せるといことも禁止となりました。でも、手拍子や拍手、笑い声(控えめな)で、全校生徒の気持ちが一つになった素晴らしい行事だったと思います。

詳細(出演者や実行委員、観客側生徒の感想など)をお伝えしたい気持ちもありますが、後日、新生徒会本部や実行委員会から事後報告的な「お知らせ」が発行されるのでは・・・? という期待を込めて、学校だよりでは簡単な報告とさせていただきます。



上段左から→「実行委員長」、「司会」、「あいゆい」バイオリン演奏、「イサイ」歌唱(3)、
 中段左から→「あおかさ」ピアノ伴奏による歌唱、「PEACH FLOWER」ダンス、「吹奏楽部発表」
 下段左から→「セカンドファイターズ」サクソ五重奏、「froze」ダンス、
 「ケーナとピアノの合奏」教員

教育相談週間(1・2年生)・三者面談(3年生)

11月2日(月)から11月11日(水)にかけて、1・2年生が担任・生徒の二者面談、3年生が保護者の皆様を交えての三者面談を実施しました。1・2年生は、学校や家庭での生活で気になることや、不安なこと、悩みなどを相談することが中心です。廊下からのぞくと、担任の先生とにこやかに、そして、真剣に話をしている様子が伝わってきました。3年生は、将来に向けた進路選択への意志決定を固める時期です。保護者の皆様の様子からもいつもと違ったピリピリしたものを感じました。保護者の皆様には、ご多用の中、時間を作っていただきましたことに感謝申し上げます。

この期間を利用して3年生全員と、実際の入学試験(面接)を想定した模擬面接試験を実施しました。緊張しながらも、志望理由や高校卒業後の進路希望などについてしっかりと自分の考えを伝えることができていました。この時期でありながら、「面接での減点の心配はなし!」と、太鼓判を押せる人がほとんどで、さすが3年生だと感心しました。模擬面接終了後に、面接に対するアドバイスだけではなく、受験勉強の進捗状況やクラスの様子、趣味、習い事などについての世間話もできました。1人10分ちょっとの短い時間でしたが、私にとっても楽しい時間となりました。

学校朝会の言葉(11/17)

新型コロナウイルスの感染者が、ここへきて増えてきています。引き続き感染予防に向けて慎重に生活していきましょう。

さて、突然ですが、皆さんは、自分の住む町、小川町のことが好きですか?

私も小川住民ですが、生まれも育ちも小川町ではありませんので、恥ずかしながら小川町にそれほど愛着は持っていませんでした。

そんな私でしたが、5月ぐらいから運動不足の解消のため、1~2時間の散歩を日課にするようになりました。せつかくなら景色のいいところや、見所がある場所を目的地にするなど、自分なりにテーマを持って歩くことにしてみました。すると、今まで気づくことができなかった素敵な景色や建造物、細い路地裏などに、「武蔵の小京都」と呼ばれるゆえんの風情ある町並みに出会うことができ、少しずつ小川町に愛着がわいてきました。

10月9日の日本経済新聞記事に、「都心から郊外への移住者の取り込みをうまく進めている町」の紹介として、小川町が取り上げられていました。コロナ感染によって今までの生活スタイルが見直されてきています。会社などでの働き方も、リモートによる自宅での仕事が可能になり、都心から郊外への移住を考える人が増えてきています。そうなると、四季折々の自然がいっぱいで、様々なレジャーも満喫できる小川町に対する注目度が上がってきます。記事によるとこの1年で、小川町への移住の割合が40%以上も上昇したというのです。

最近はまだ歩くだけではなく、色々な事業所の方に直接お話を伺うことが楽しみになっています。どこの事業所の方も、学校の教師であることを告げると、中学生に実際に足を運んほしい、見てほしい、聞いてほしい、体験してほしいと言ってくれます。伝統産業を支える事業所の皆さんの「小川町の魅力を中学生に伝えたい!」という熱い気持ちを感じます。伺った話や写真、いただいた資料などを3階に掲示しています。時間があるときに見て小川町を再発見してください。

私も実際に足を運んだこと、見たこと、聞いたこと、体験してもらったことで、今まで知ることができなかった小川町の魅力に気づくことができました。是非、皆さんも、実際に足を運んで故郷である小川町を「知る」ことからスタートしてみてください。

今、注目されている小川町。この町の素晴らしさを、将来につなげていくための工夫を、「おがわ学」の学習を通して進めてくれたらと思っています。



写真上から、①②「かみすきの村」紙漉工房・乾燥場
③「武蔵鶴酒造」醸造場 ④「富岡鬼瓦工房」製作所